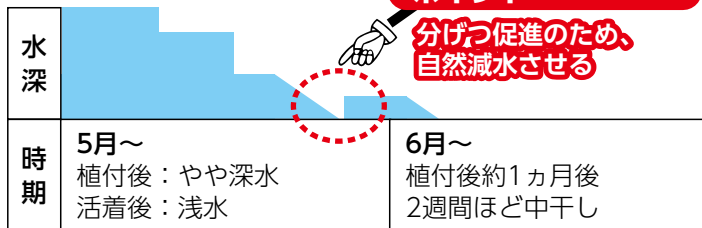


田植え後の水管理

【水管理のイメージ】



ポイント

分けつ促進のため、
自然減水させる

移植後から幼穂形成期の水管理は、「保温効果」「雑草の抑制」「養水分の供給」などの生育・収量や品質に影響を与える重要な役割があります。水稲の生長点が土壌中にあり、「地温」と「水温」から影響を受けやすいので、生育初期は細やかな水管理が必要です。

**田植え以降は、今年産米の品質・収量を大きく左右する重要な時期です。
田植え後の生育不良や、雑草の取りこぼしがあれば、営農指導担当者にご相談下さい!!**

取りこぼした時の除草剤（ジャンボ剤、豆つぶ剤）の紹介

ヒエ・広葉

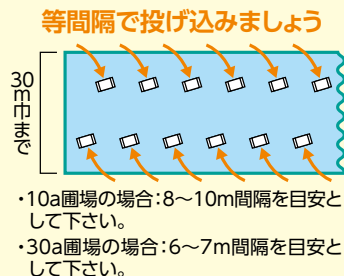
2成分

ツインスタージャンボ (40g × 10)
散布量 **400g / 10a**

特裁不可

移植後5日～ノビエ3葉期 収穫60日前まで

★問題雑草・ホタルイをはじめ、クログワイやシズイ等、多年生から一年生までの幅広い雑草の地上部だけでなく地下部も抑える。
★特に一発処理剤で取りこぼしたホタルイ、クログワイの防除に適しています。



ヒエ・広葉

1成分

ヒエクリーン豆つぶ250
散布量 **250g / 10a**

移植後15日～ノビエ4葉期 収穫45日前まで

★ノビエだけに効いて、イネは安心です。
★ノビエに対する強力な除草効果!!

袋からの直接散布もできますが、上記のひしゃくにて薬剤をすくい取り、畦畔から投げ入れることも可能です。ひしゃくでの散布場合、ひとすくい25gの場合、10a当たり10回の投入です。



ヒエ・広葉

1成分

アトリ豆つぶ250
散布量 **250g / 10a**

新

特裁不可

移植後20日～ノビエ4葉期 収穫45日前まで

★今年度からの新剤です!!
★1成分で多年生雑草に高い効果!!
★初期剤や一発剤の取りこぼし、後発生雑草防除に有効です。

ジャンボ剤、豆つぶ剤の散布のポイント

- 散布後拡散しやすいように水深5～7cmに保つ。
- 表層剥離、アオミドロが発生した時は、雨上がりなど藻を落ち着かせてから散布する。
- 水田の水がかたよるほどの強風が予想される場合は散布を避ける。

●処理時の水深は
5cm以上

